

人口減少率、合併前の区域で大きな格差

市議会中山間地対策特別委員会で話題に

市議会の中山間地対策特別委員会（宮崎政国委員長）が8日、開催されました。この日は、市役所の高齢化が進んだ集落の調査報告書、食料・農業・農村議員連盟の提言、特別委員会での調査と議論の3つを対比した一覧表をもとにして、委員会メンバーだけで課題整理をしました。

委員長から「まだ議論の不足しているところがあったらぜひ発言を」というの要請があり、雪への対応、住民の健康維持、移動手段の確保、集落機能維持などについて活発な発言が相次ぎました。

発言が集中したのは雪対策と人口問題でした。このうち雪対策では、私が「高齢化が進み、木戸先除雪などへの援助が求められてい

る」と冬期保安要員制度の維持と充実、拡大の必要性についてふれたところ、「市道などから入った小さな道や民家周囲の除雪で人手が足りない」など他の委員からも雪対策の充実を求める発言が続きました。

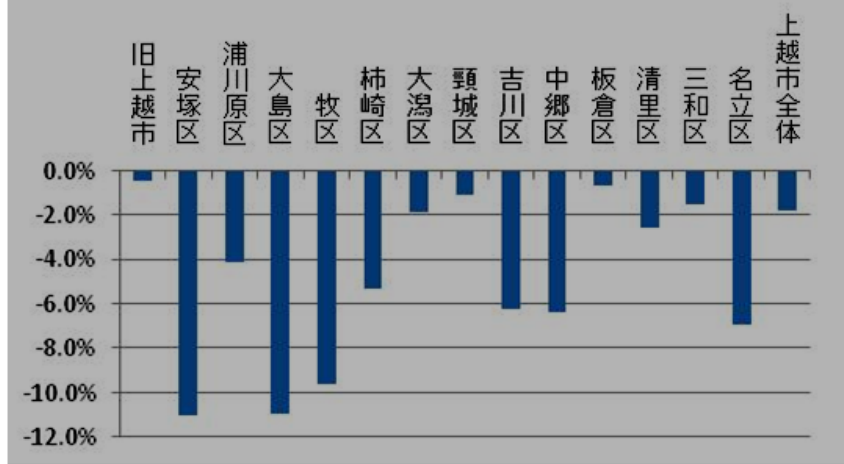
この日の委員会で参考資料として出された合併時の人口と4年後（平成20年12月末）の人口を比較した表をめぐっても「合併後の過疎地の人口減対策は各区（旧町村）ごとの若者定住対策が必要ではないか」など発言がいくつも出ました。

表によると、14市町村が合併してできた新上越市全体では3756人、1・8%の減なのに、安塚区、大島区はそれぞれ11%も減っています。一方、一番人口の減り方が少なかったのは旧上越市

合併後の人口増減一覧表

	08.12.31現在(人)	05.1.1現在(人)	増減(人)	増減比率
旧上越市	134,875	135,488	△613	△0.5%
安塚区	3,204	3,601	△397	△11.0%
浦川原区	4,034	4,205	△171	△4.1%
大島区	2,126	2,388	△262	△11.0%
牧区	2,507	2,774	△267	△9.6%
柿崎区	11,279	11,908	△629	△5.3%
大潟区	10,308	10,502	△194	△1.8%
頸城区	9,925	10,031	△106	△1.1%
吉川区	5,147	5,487	△340	△6.2%
中郷区	4,655	4,970	△315	△6.3%
板倉区	7,802	7,853	△51	△0.6%
清里区	3,214	3,297	△83	△2.5%
三和区	6,345	6,442	△97	△1.5%
名立区	3,096	3,327	△231	△6.9%
上越市全体	208,517	212,273	△3,756	△1.8%

増減比率



5%の減となっていて、同じ市内でも、人口減少が著しいところとそうでないところがある。この差はどこから出てくるのか、しっかりと分析して対策を考える必要がありま

次回の委員会では、この日の議論を踏まえてさらに踏み込んだ課題整理と具体的な対策を話し合うことにしています。

9条を守ることで国際貢献を

上越九条の会発足4周年記念集会（写真）が10日、市民プラザで開催され、参加してきました。メインは『世界がもし一〇〇人の村だったら』の監修者として有名なダグラス・ラミスさんによる講演です。

現在沖縄に住んでいるダグラス・ラミスさんは、「自衛隊が軍隊として誰ひとり殺していないことはすごいこと。戦後、日本国民が9条を守り続けてきたことは歴史上すごいことだ」と語り、憲法9条を守り国際貢献をしていくことを訴えました。



【イワナシ】山道で見つけピンクのかわいい花。10日、高田地区にて撮影。



【訂正】前号のバス路線の記事中、「評価検証業務を行うのは㈱ケー・シー・エス」と書きましたが、評価検証業務の受託業者はまだ決定していません。㈱ケー・シー・エスが受託することが決まったのは、上越市地域公共交通総合連携計画策定業務でした。お詫びして訂正します。